東京シンフォニエッタ

第47回定期演奏会

作曲家の横顔
エリック・モンタルベッティ

愉快に生きるための地上の広大なる空間
Vaste champ temporel à vivre joyeusement（2005）

五つのフォルマント～クラリネットのための
5 Formants pour clarinette（1995）
ー日本初演ー
クラリネット：佐藤和歌子／西澤春代／川越あさみ

町へと開けるさまざまな窓
Fenêtres simultanées sur la ville
（2019 年共同委嘱作品）ー日本初演ー

2020.7.9
【THU】18:30 開場 19:00 開演

東京文化会館 小ホール
（JR 上野駅 公園口）

全席自由　一般 4,000円　学生 2,000円

出演　指　揮：板倉康明
　　演　奏：東京シンフォニエッタ

主催：一般社団法人 東京シンフォニエッタ
助成：芸術文化振興基金
公益財団法人 NOMURA 野村財団
公益財団法人 花王 芸術・科学財団
公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
公益財団法人 三菱 UFJ 信託芸術文化財団
制作協力：東京コンサーツ
※出演者、曲目は予告なしに変更になる場合がございます。

東京シンフォニエッタ 第47回定期演奏会　2020.7.9 [THU] 18:30 開場 19:00 開演 東京文化会館　小ホール

作曲家の横顔　エリック・モンタルベッティ

ごあいさつ

東京シンフォニエッタ音楽監督　**板倉 康明**

モンタルベッティの音楽は東京シンフォニエッタで取り上げるのは二回目であるが、作曲家としてのキャリアの短さから日本では知名度が高いとは言えない。その音楽に注目しているのは日本では東京シンフォニエッタのみである。が、現在ヨーロッパで、情報解禁されていないのでここには書けないものの重要な演奏団体、演奏家、音楽祭から多くの委嘱を受けているし、スイス・ロマンド管弦楽団＋エマニュエル・パユによる昨年の「フルート協奏曲」の委嘱だけを取ってみてもその実績は大きい。

モンタルベッティの音楽との関わりの端緒は彼が前職、ラジオ・フランスのオーケストラの事務局長在職中に、「一個人として会う時間を作ってくれないか？」と依頼があり、そこで、作曲をしている事、作曲家として活動していきたいとの話を聞いた。知らない作曲家には興味を持って取り上げ、紹介していくのが私たちの任務なので、とにかく楽譜を送ってもらい、一読したところ、その独創性に感銘を受け、ぜひ取り上げたいと考えた。驚いたことに、会った時の内気で自信無さげな雰囲気とは異なり、大胆な表現が随所に見られた。同時期にフランスでも地方のオーケストラで彼の作品を取り上げていて、図らずも彼の作曲家としてのキャリアの最初に関われたのは私たちにとっても誇らしい思いである。

今回はジュネーブの「レマニック」と言う現代音楽の演奏団体との共同委嘱作品の日本初演だが、常に難解で翻訳の難しい新作の題名は、彼の幅広い教養の中での現代絵画への興味から霊感を受けた大作である。その最新作と、私たちで日本初演した作品を並置する事により、この特異な作曲家の音楽を楽しみたい。

特にフランスを始めとするヨーロッパ各地の委嘱に対する眼は大変厳しく、基本的に税金を使うので、委嘱を受けるのは簡単では無い。そのような状況で絶え間無く委嘱を受け続けているその音楽を紹介する事によって、ヨーロッパで社会的に必要とされている現代作品に触れて専門家は自分自身の音楽との関わり方、愛好家は商業的では無く、音楽文化としてどのようなものが求められているのかを知る好機となる。

Music Director
板倉康明

Flute
斎藤和志
齋藤光晴

Oboe
辻　功
渡辺康之
梅枝理恵

Clarinet
西澤春代
佐藤和歌子
川越あさみ

Bassoon
多田逸左久
長　哲也
守屋有紀

Horn
有馬純晴
中島大之
岸上　穣

Trumpet
高橋　敦
坂井俊博

Trombone
西岡　基

Tuba
渡辺　功

Saxophone
小串俊寿

Percussion
松倉利之
和田光世
石崎陽子

Harp
木村茉莉

Piano
藤原亜美

Violin
山本千鶴
海和伸子
梅原真希子
吉成とも子

Viola
百武由紀
吉田　篤
守山ひかる

Cello
花崎　薫
高麗正史
宇田川元子

Contrabass
吉田　秀
那須野直裕
長谷川信久

Electronics
有馬純寿

http://orchestra.musicinfo.co.jp/~ts/

エリック・モンタルベッティ（1968–）

1968年フランス生まれの作曲家。11歳で作曲を始め、ピアノ、オルガンを学ぶ。コレージュ・ド・フランスとIRCAMでブーレーズらに学び、パリ音楽院でポール・メファノに管弦楽法、ミカエル・レヴィナスに分析を、現代音楽講習会サントル・アカントでジョージ・ベンジャミン、マグヌス・リンドベルイ、トリスタン・ミュライユらに作曲を学ぶ。フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団芸術監督を1996年から2014年まで務めた後、それまで書き溜めていた作品を発表。2015年、初のオーケストラ作品《愉快に生きるための地上の広大なる空間》が板倉康明指揮東京シンフォニエッタにより日本初演。2018年、モナコの芸術祭プランタン・デ・ザールの委嘱作《相貌におけるきらめき》が山田和樹指揮モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団により初演。2019年5月にはフルート協奏曲《生きることを忘れてはならない》がエマニュエル・パユの独奏、ジョナサン・ノット指揮スイス・ロマンド管弦楽団によって初演された。作品はデュラン社より出版され、テディ・パパヴラミやフランソワ=フレデリック・ギィらにより演奏、録音されている。

撮影 V.Montalbetti

C'est un grand honneur et une vraie joie pour moi de retrouver bientôt le public de Tokyo, grâce au Maestro Yasuaki Itakura et aux excellents musiciens du Tokyo Sinfonietta. J'espère que vous aurez plaisir à découvrir la musique que j'ai composée pour eux.
La nouvelle pièce *Fenêtres simultanées sur la ville* pour 18 musiciens voudrait fêter la merveilleuse complémentarité des êtres, qui rend nos vies plus riches et plus harmonieuses. La musique m'en a été inspirée par les formes et les couleurs joyeuses des œuvres de Sonia et Robert Delaunay.
Merci à tous pour votre accueil,

Eric Montalbetti

マエストロ板倉康明氏と東京シンフォニエッタのすばらしいメンバーのおかげで、東京の皆さまにふたたびお会いできますことは、私にとって大変な栄誉であり、真の喜びです。彼ら音楽家の皆さんのために作曲した音楽を、どうぞお楽しみください。

新作である18の音楽家のための「町へと開けるさまざまな窓」は、存在同士が驚嘆するほどにお互いを補完し合っている、それが私たちの生をより豊かに、調和したものにしていることを祝福する、そのような作品です。音楽を書く私にインスピレーションを与えたのは、ソニアまたロベール・ドローネーの作品の、喜びにあふれる形と色彩でした。

今回関わってくださるすべての方々に感謝を申しあげます。

エリック・モンタルベッティ
（訳・平野貴俊）

チケット予約

■ **東京コンサーツ**（問合せ先）
03-3200-9755（平日 10:00-18:00）
http://tokyo-concerts.co.jp/

■ **東京文化会館チケットサービス**
03-5685-0650（10:00-19:00 休館日を除く）
http://www.t-bunka.jp/

次回予告

第48回定期演奏会「作曲家の横顔　武満徹～生誕90年～」

◆**武満徹**：雨ぞ降る（1982）
雨の呪文（1983）
系図～若い人たちのための音楽詩（1995･2003岩城宏之編曲による室内楽版）－東京初演－

◆**川島素晴**：And then I knew 'twas Toccata II（2020年委嘱作品）－世界初演－

2020年12月3日［THU］19:00開演　東京文化会館 小ホール

※出演者、曲目は予告なしに変更になる場合がございます。

TOKYO SINFONIETTA THE 47th SUBSCRIPTION CONCERT